

20.1MW発電所が完成

年間約15万tの木質燃料活用

地域資源利用促進へ

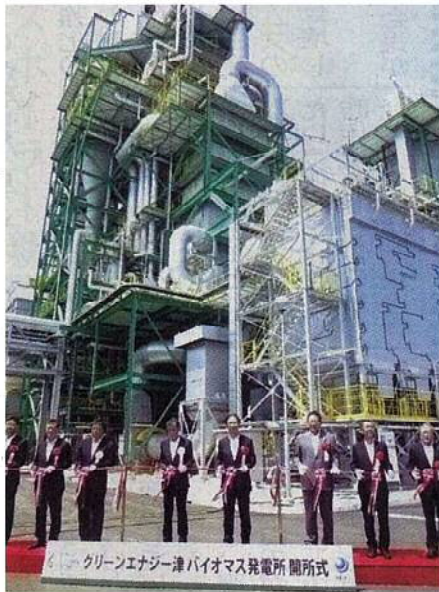
JFEエンジニアリング



狩野久宣社長

JFEエンジニアリングは8月2日、津製作所(津市)構内に建設していた木質バイオマス発電所が完成し、開所式を開催した。発電出力は20・1メガワットで、

総事業費は約90億円。建設・運営等の資金は百五銀行や三井住友信託銀行、日本政策投資銀行からプロジェクトファイナンスで調達した。年間総発電量は約15万8000メガワット時以上、一般家庭約4万4000世帯分の消費電力に相当。7月1日から商業運転を開始している。



グリーンエナジー津の開所式

グリーンエナジー津バイオマス発電所開所式

JFEエンジニアリングの狩野久宣社長は、「県や市より、工場立地や木質チップの確保、津港の植物防疫指定港化、公事前審査など計画段階から本日まで温かい支援を頂いた。地域資源の利用促進によって、森林保全・里山再生、雇用につなげ地域創生に貢献していきたい」と話した。

使用する燃料は、インドネシアやマレーシアからPKSを約10万t調達する他、県内外から木質チップ約5万tを集める。

売電先は、同社子会社のアーバンエナジーで、グループ内で小売事業まで一貫した体制をとる。イーレックスやエネサーブ、ミツウ

にも販売する。同社が中心となり設立した発電事業主体「グリーンエナジー津」の資本金は1億円。出資者の内訳は、▽JFEエンジニアリング(35・2%)▽日本政策

投資銀行(25%)▽日本通運(14・9%)▽阪和興業(10%)▽大中物産(10%)▽岡谷鋼機(4・9%)となっている。事業期間は、FITに基づき売電が可能ない

2036年6月まで(20年間)を予定。36年7月以降は「売電単価や燃料調達費用など、その時のようすを見て継続するかどうか検討していく」とした。(関連記事5面)